

地域レベルでの漁況海況情報の提供事業

I 概要

漁業資源課 田ノ本 明彦
山下 慶太郎

1 目的

高知県海域における漁況、海況を調査するとともに、関係機関から関連する情報を収集し、漁海況速報として漁業関係者等に広報する。併せて本県の主要な漁獲対象魚種であるイワシ類、マアジ、サバ類等の漁況及び海況の長期予報を行い、広報する。

以上のことから、本事業は水産資源の合理的利用と漁業の効率化を図り、より安定した漁業経営に貢献することを目的とする。

2 方法と結果

(1) 調査事業

1) 海洋観測調査（沿岸定線調査）

沿岸定線調査を平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月まで毎月 1 回行った。

2) 沿岸定地水温調査

土佐湾沿岸の 7 地点（柏島、足摺、土佐清水市、田野浦、浦ノ内、室戸、甲浦）において水温の観測を行った。さらに、土佐湾に設置された黒牧 10 号（室戸沖）、12 号（高知沖）、13 号（足摺沖）において自動観測された水温データを収集、整理した。

(2) 速報作成・通報業務

1) 漁況聞き取り及び漁獲統計調査

高知県漁協の 9 支所（清水、下ノ加江、田野浦、佐賀、宇佐、手結、室戸、椎名、甲浦）、すくも湾漁協、窪津漁協、久礼漁協、錦浦漁協、春野町漁協、安芸漁協に協力を依頼し、週ごとの漁獲量を収集した。さらに、各産地市場の月別統計資料を収集し、主要魚種別漁協別（支所別）、主要漁業種類別の漁獲量を整理した。

2) 漁海況速報の発行

人工衛星情報等から判断した黒潮の流路及び沿岸表面水温の分布状況並びに漁業協同組合から聞き取った週間の漁獲量、及び近県（宮崎県、和歌山県、三重県）の漁況情報を収集、整理し、漁海況速報として年間計 51 回の情報提供を行った。

3) 海洋観測表及び海況図の作成・通報

海洋観測調査により得られた結果を海洋観測表としてとりまとめるとともに、水温、塩分、透明度、流向・流速の水平分布図を作成した。

4) 黒牧ブイ海況情報テレホンサービスの提供

電話応答装置により黒牧 9 号、10 号、12 号、13 号での風向、風速、表面の水温、流向、流速の情報を提供した。

本年度の当サービスの利用回数は計 160,124 回であった。

5) 高知県漁海況ホームページへの情報提供

当场が収集・作成した海水温情報、漁海況情報（漁海況速報、漁況の概況、長期予報）及び黒潮牧場ブイで計測された海象情報は、高知県漁海況ホームページで公開した。本年度の当ホームページへの訪問者数は計 495,538 人であった。

（高知県漁海況ホームページ：<http://www.suisan.tosa.pref.kochi.lg.jp/>）

（３）予報作成業務

１）漁海況長期予報の発行

中央水産研究所及び関係各県による中央ブロック資源評価会議及び漁海況情報分析検討会で検討した内容を基に、上半期（1～6月）と下半期（7～12月）の漁海況の経過を整理し、次半期の予想を行った。作成した長期予報は関係機関に文書で提供するとともに、高知県漁海況システムに掲載し公表した。

（４）漁場探索情報の収集

１）GPS データロガーの設置

メジカ（マルソウダ）を主対象とする土佐清水地区のメジカ漁船 4 隻とキンメダイを主対象とする室戸地区のキンメ漁船 4 隻に、GPS データロガー、漁獲情報を入力するためのテンキー及び送信機を設置した。

２）データの収集

漁船からは、10 秒ごとの位置と表面水温及び漁獲数量が送信され、水産試験場では、それらの情報をメールとして受信し、データベースに蓄積した。

平成 27 年度のデータ収集期間は 4 月 1 日～3 月 31 日で、このうち 1 隻でも出漁した日数はメジカ漁船が 150 日、キンメ漁船は 188 日であった。

（５）重要水産資源（アカムツ）の資源生態調査 * 詳細は別項参照

１）アカムツの漁獲情報収集

本県におけるアカムツの漁獲動向を把握するため、漁協への聞き取り等により漁法や漁獲量等を集計した。集計の結果、漁法は深海延縄や沖合底曳網による漁獲が多く、漁獲量は年間 20 トン前後で推移している。

２）魚体測定

アカムツの産卵生態、年齢と成長等の生物特性を明らかにするため、水揚された市場での尾叉長測定を行うとともに、漁獲魚の一部を買い取り、精密測定及び耳石・鱗の採取を行った。精密測定（323 尾）の結果、雌雄比率は雌の割合が高く（尾叉長 25cm 未満では 99%が雌）、雌のうち尾叉長 30cm 以上の個体で 8～9 月に生殖腺の肥大が確認された。